

あの頃の津山

日本原演習場新野廠舎しょう

(大正末期〜昭和初期)

写真提供・江見写真館



写真は、日本原演習場内にあった新野廠舎(宿营地)の入口を写したものです。軍服姿の男性がいることから大正時代末期頃から第二次世界大戦終戦までに写されたものと思われる。

日本原演習場は、旧陸軍によって明治41年から演習地として使用され、その後、大正13年と昭和9年に用地の買い増しにより拡大しました。昭和20年の敗戦後、旧陸軍から進駐軍の演習場に変わり、現在は陸上自衛隊の演習場になっています。

『勝北町誌』によると、写真の新野廠舎は、この演習場ができた明治41年に日清戦争をきっかけとして、広島に置かれていた大本営の建物を利用して造られたと書かれています。写真中央を見ると、門の中には多くの木造の兵舎があり、軍用として使用されていたのか、馬が木に繋がれています。また、高級将校が訪れていたのか、立派な車が門から出てくる様子も取れます。



現在の旧日本原高等学校の様子

終戦後、日本原演習地の一部が地元払い下げられたことに伴い、この廠舎は入植してきた日本原入植団の臨時宿舎として使用されました。そして、その後、建物は取り壊され、昭和23年、その跡地に日本原高等学校が開校しました。今は、写真の建物の面影はなくなっていますが、当時の演習場の様子を伝える貴重な一枚です。

このコーナーに掲載する懐かしい津山の写真を募集しています

図津山郷土博物館
☎22・4567

つぶきやき編集室

津山加茂郷フルマラソン全国大会を取材していると着ぐるみを着たり変装用マスクで顔を覆ったりして42.195kmを完走するランナーを多く見掛けました。呼吸が苦しく、体も重たくなるはずなのに普段から着用して練習しているのだろうか。特に、なすびの着ぐるみを着た人が気になりました(W)

暴飲暴食を重ね、過去最高の体重に近付いてきました。その結果、仕事に着ていくスーツの選択肢が少なくなり、スリムなスーツを着るとお尻にプレッシャーを感じます。運動しようと思っても、自宅周辺を1回走り、しんどくて断念。そんな中でフルマラソンの取材、みんなが輝いて見えました。(雨)

津山さくらまつりの取材で、いろんなイベントや風景を撮影するため、石段を登ったり下ったりカメラ機材が意外と重く、肩や足にズシッと疲労がたまりました。体力の回復のために今日はぐっすり寝るぞ!その前に、お風呂で疲れを流し、お風呂上がりのプッシュ自分へのご褒美でニッコリ(笑)

今月の表紙

流れる大杯に思いを込め
曲水の宴

4月4日 衆楽園

編集・発行 (毎月10日発行)

津山市総合企画部秘書広報室(市役所3階) 〒708-8501 岡山県津山市山北520番地

☎0868-32-2029 ☎0868-32-2152 ✉kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます

http://www.city.tsuyama.lg.jp/



津山市ホームページ版

☆秘書広報室のフェイスブックはこちらから
http://www.facebook.com/city.tsuyama.kouhou



秘書広報室フェイスブック



広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル(雑誌)にご協力ください